

話題の島 隠岐諸島

○隠岐諸島は、島根半島の北西約50Kmにある諸島。隠岐郡島とも言う。

島根県隠岐郡に所属。一般に隠岐島(おきのしま)と言うが、その名を持つ島があるわけではなく、隠岐諸島を総称する言葉である。

島後水道を境に島前(どうぜん)と島後(どうご)に分けられる。

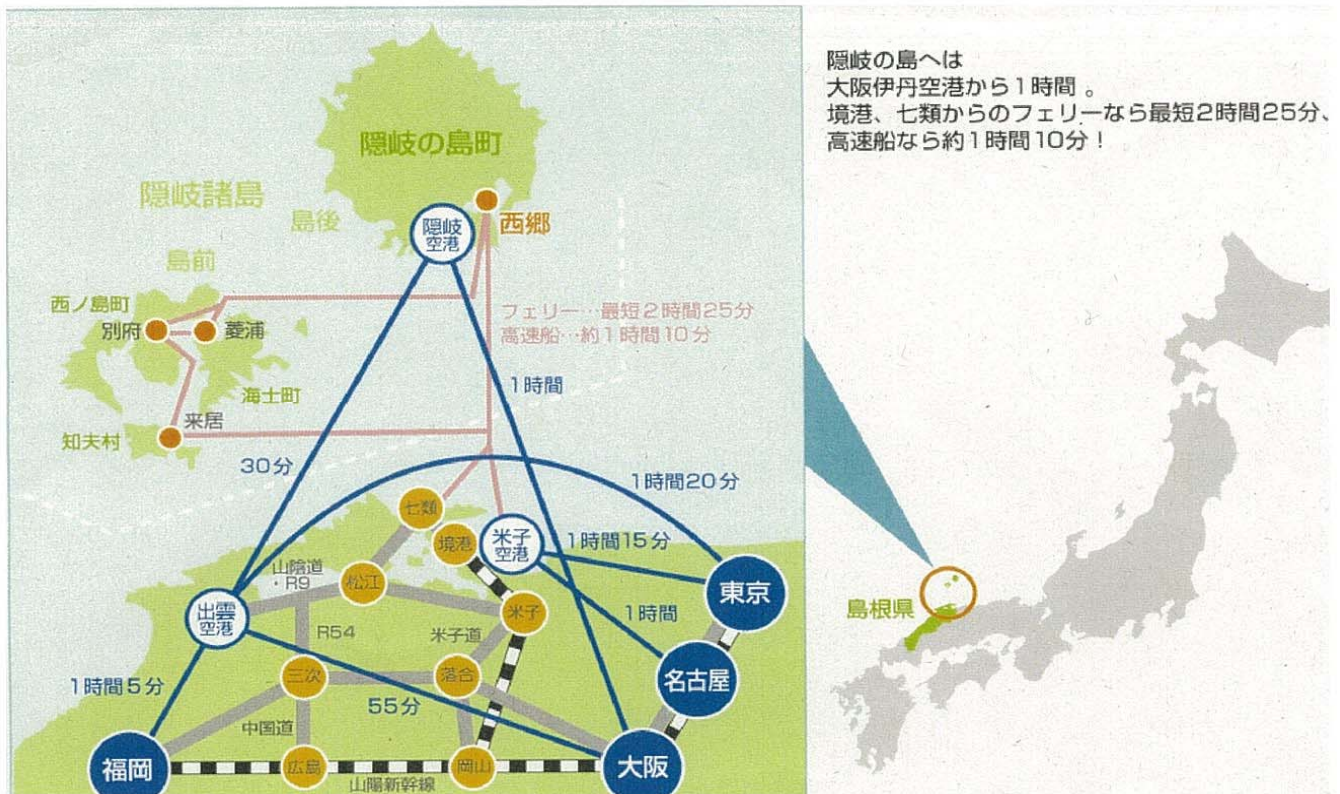
島前は、島前三島と呼ばれる知夫里島(知夫村 ちぶむら)、中ノ島(海士町 あまちょう)、

西ノ島(西ノ島町 にしのしまちょう)から構成される郡島であるのに対し、

島後は島後島(隠岐の島町)の一島から構成される

主な島はこの4島であるが付属の大小合わせるとは約180個ぐらいで干潮・満潮の時に数がかなり変わってしまうので正確には島の数を数えることは出来ないと言われています。

(島にするか岩にするか? 選択困難な物も在る為)



島 前

- 知夫里島 知夫村 人口 650 人
- 中ノ島 海士町 " 2,400 人
- 西ノ島 中ノ島町 " 3,400 人

島 後

- 島後島 隠岐の島町 人口 15,000 人



隠岐の総社として、創建された社殿で、本殿は隠岐造(おきづくり)ともいわれる独特のもので、屋根はカヤぶきです。境内には高さ29m、樹齢2000年といわれる天然記念物の巨木、八百杉があります。また億岐家は隠岐国造(おきのくにのみやつこ)の末裔(まつえい)といわれ、宝物殿には駅鈴・唐櫃と隠岐国倉印の三宝物が展示されています。

毎年6月5日に行なわれる玉若酢命神社例祭が隠岐三大祭りの一つ「御霊会風流」です。この祭りの最大の見所は、8頭の神馬が馬付きと共に本殿に向かって駆け上がる勇壮な「馬入れ神事」です。馬付きと呼ばれる若い衆たちは、5日ほど前から潔斎(けっさい)を繰り返します。その間は、他人とは火を別にし、もちろん家族とも離れその時に備えます。頑固なまでのしきたりの踏襲に伝説と現代が混沌としつつ確実に世代継承されています。この祭りが終わると隠岐の島に初夏の香りが漂ってきます。



後醍醐天皇の御在所と伝わる国分寺 隠岐国分寺跡

隠岐に流された後醍醐天皇の行在所と伝えられています。現在の寺の後方に礎石がありますが、これは明治の廃仏毀釈前の本堂跡です。境内からは奈良時代の瓦が見つっていますが、創建時の様子はまだ分かっていません。毎年4月には重要無形民俗文化財の蓮華会舞がおこなわれる場所としても有名です。この石段を上ったところが、後醍醐天皇行在所(あんざいしょ)址です。



中村のかぶら杉

樹齢はおよそ600年、高さ38.3m、根元の周囲9.7m、樹幹の分岐部の下方の周囲8mです。その大きさと特異な形態が天然記念物の指定理由です。元来、杉の樹はまっすぐに成長しやすく、奇態になりにくい木なので、現在県下で、形態が指定理由になっているのは、この「かぶら杉」と「乳房杉」だけです。

赤壁(せきへき)

島の南西部に位置し、国の名勝天然記念物に指定されています。鉄分を含んだ玄武岩や凝灰岩のもつ赤、黄、黒、白といった色鮮やかな文様を描く大岸壁で、最も高い所で200mあり、地元では、「あかかべ」または「あかだき」とも呼ばれています。海からのサンセット遊覧もあります。

摩天崖(まてんがい)

何十万年もの間、日本海の逆巻く風浪に削り取られてきた比類なきスケールの大断崖。

標高は 257m にも及び、海蝕崖では日本一の高さを誇ります。

崖面には繰り返し流れて積み重なった溶岩の作るしま模様が見えます。

通天橋(つうてんきょう)

海に大きくせり出した巨大な岩の架け橋。岩石の中央部が海蝕作用によってえぐりあげられたもので、大自然が創り出した造形の妙を見ることができます。

約 7km にわたって粗面玄武岩の海蝕崖や海蝕洞が続き、国立公園に指定されている隠岐最大の景勝地、国賀海岸にある代表的な奇岩です。

観音岩(ローソク岩)

「日本の夕日百選」に認定された「国賀海岸 観音岩」にかかる夕陽

国賀海岸の奇岩の中でもひととき細長く(海拔約 40m)そびえ立っています。

海上からは、百済観音の姿にも見えることから「観音岩」とも呼ばれています。

西ノ島町の陸上からは、日が沈むころに、火が灯ったろうそくに見えることから「ローソク岩」とも呼ばれています。

観音岩がローソクのように見える時期は、年に2期間「春と秋」です。

1. 4月20日 (18:30~)から 6月上旬(19:10~)の期間
2. 8月お盆ごろ(18:40~)から10月上旬(17:30~)の期間

三郎岩

菱浦港の北東部にある、大・中・小の3つの奇岩。大きい方から「太郎・次郎・三郎」と呼ばれ、地元の人たちに親しまれています。



浄土ヶ浦海岸(国指定名勝)

浄土ヶ浦は約 1km の長さで島後のほぼ真東に広がっています。

雄々しく立ち並ぶ岩礁群と透き通った海との対比は、その名もかくやと思わせる独特の世界を演出しています。



岩倉の乳房杉

樹齢およそ 800 年といわれ、高さ 38m、幹周り 11m の巨木です。地上数メートルのところから 15 本の幹に分かれ立ち、大小 24 個の乳房状の下垂根を枝に下げていることが特徴です。その中で最大のものは長さ 2.5m、周囲 2.2m にも達しており、年々少しずつ伸長しています。



龍ヶ滝

「大昔、この隠岐の国を開拓したのは、玉若酢命(たまわかすみこと)と水若酢命(みずわかすみこと)の御兄弟でありました。どちらの神様もこの広々と広がる大海原の彼方から渡ってこられました。玉若酢命は大久海岸から上陸して下西にお鎮まりになりました。玉若酢命は、海をも翔けり、断崖をも駆け登る龍馬に乗って上がられ、ちょうどこの断崖を一息に駆け登られましたので、その馬のひずめと尻尾の跡が残りました。そこから「龍が滝」「龍が崖」という地名がつけました。」

こんな、伝説案内板が設置してある断崖絶壁からの眺望を楽しんでいただけるのが「龍ヶ滝」です。大久(おおく)集落と卯敷(うづき)集落の間にあります。県道の旧道を利用した遊歩道となっており岩山をくり抜いて造られた以前のトンネルもあります。新龍ヶ滝トンネルを越えた布施側には「龍が滝ポケットパーク」がありますので、ここに車を駐車し、眼前に広がる水平線のスケール感を体感しながら、眺望もお楽しみ下さい。



トカゲ岩(天然記念物)

トカゲ岩とは、岩山の岩質の異なる部分が長年の雨風によって浸食され、全長約 26mの巨大なトカゲの形に浮き上がって取り残された奇岩です。